



にしきの つうしん
錦乃通信

Mamiya J.H.S. School News

令和5年11月1日(水)

さいたま市立馬宮中学校

令和5年度 第7号

学校教育目標

未来を拓け ~自己の創造・生きる自信~

SINCE 1947

School Education Goal

Open your Future ~Self Creation ・ Confidence to live~

「竹の節」

校長 ^{うえ} ^だ ^{やす} ^{まさ}
上田 泰正

朝晩めっきり冷え込み、木々も色づき始め秋の深まりを感じる今日この頃です。秋は「天高く 馬肥ゆる秋」という言葉どおり、さわやかなイメージのある季節です

先日、小学校の担任の先生を思い出しました。台風が通過した朝、強い風の中でしなっていた「竹」を見た時に、なぜかその先生の顔が浮かんだのです。先生が担任していた教室には、毎年絵の得意な児童が描いた竹の絵が、教室の後ろに掲示されていました。

「竹は、上に向かってまっすぐ高く伸びる。雪にも強く、強風にあつてもやわらかく全体が大きくしなることで折れない。そんな人になってほしい。」

先生はこのように話し、竹の絵を毎年掲示する理由を説明されました。そんな遠い昔のことを、強風の中でしなる竹を見て思い出しました。

さて、竹には「節」があります。なぜでしょう。

竹は、高く伸びるために節があるそうです。この節についての研究成果があります。複数の大学などの研究者で構成される研究チームが、2016年2月に発表しました。野生の竹がなぜ節をもつのか、その謎を科学的に解明したというのです。記事によると、研究成果の概要は次のとおりです。

竹は中身が空洞で、ところどころに節をもつことが知られているが、多くの植物の中で竹だけがこうした特徴を有していた。野外調査で得た測定データと、構造力学理論に基づく数理解析を活用して調査を行った結果、互いに隣り合う節と節の間隔が、ある一定のルールに従うよう絶妙に調節されており、結果として、野生の竹が「軽さ」と「強さ」を併せもつ理想的な構造を「自律的に」形成している。

私たちは、物事の区切りとなる大切な所、区切り目の意味で「節目」という言葉を使います。竹だけでなく、人も節目という区切りを大切にすることでしなやかな強さを兼ね備え、すくすくと天に向かって成長できるのではないのでしょうか。

10月19日(木)に行われた合唱コンクールも、生徒の皆さんにとっての大きな節目だと思います。素晴らし歌声が響き渡りました。特に3年生の合唱は、先輩が繋いできた伝統を、さらに力強く後輩たちに繋ぐ至高の合唱となりました。

生徒の皆さんの明るい未来には、これからも大小様々な節目があるはずです。一つ一つ節目を増やし、以前よりも一歩高いところへの成長につなげていってください。